

スギ・ヒノキさし木苗の生産性向上に関する研究

林業研究部・森林チーム

1. 研究の背景

県内のスギ苗木自給率は約6割と低い値で推移しており、早急な増産対策が求められている。普通穂の半分の長さである穂長20cmの穂木（以下、「ミニ穂」と記す）の採穂を追加することで、普通穂のみを採穂するよりも台木あたりの採穂量が増加することが明らかとなっているが、ミニ穂を用いたコンテナ苗育苗については不明な点が多い。

併せて、特定母樹利用推進の観点から、特定苗木の普及拡大に向け品種毎の特性解明が求められている。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ミニ穂を用いたコンテナ苗育苗において、緩効性肥料を元肥として利用しても、高い発根率が確認でき、苗木の生育に影響を及ぼさないことが確認できた。
- 特定苗木の品種により、発根の開始時期・速度、成長量等に差があることが確認された。また、元肥を利用することで、ミニ穂を用いた場合でも、育苗期間1年で規格到達する可能性がある品種があることが明らかとなった。

表：さし付けから1年後の枯死・発根率と規格到達率

品種	さし付け日	本数	元肥	枯死率(%)	発根率(%)	規格到達率(%)
県佐伯6号	R4. 9. 13	40	なし	0	100	0
		40	あり	5	95	45
	R4. 10. 13	40	なし	0	100	0
		40	あり	10	90	20
	R5. 2. 14	40	なし	0	100	0
		40	あり	5	95	48
	R4. 9. 13	40	なし	18	82	0
		40	あり	25	75	48
県佐伯13号	R4. 10. 13	40	なし	0	100	0
		40	あり	20	80	10
	R5. 2. 14	40	なし	0	100	0
		40	あり	0	100	20
県日田15号	R4. 9. 13	40	なし	18	82	0
		40	あり	15	85	5
	R4. 10. 13	40	なし	3	97	0
		40	あり	0	100	3
	R5. 2. 14	40	なし	0	100	0
		40	あり	0	100	3
	R4. 9. 13	40	なし	10	90	0
		40	あり	20	80	58
県藤津14号	R4. 10. 13	40	なし	0	100	0
		40	あり	0	100	40
	R5. 2. 14	40	なし	0	100	0
		40	あり	0	100	50

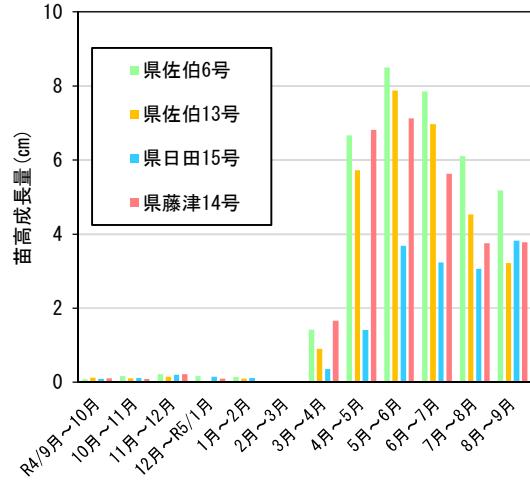


図 令和4年9月さし付け個体の1年間の苗高成長量の推移

3. 期待される効果

- 元肥の利用による作業工程の省略
- ミニ穂利用によるコンテナ苗生産量の増大
- 特定苗木の品種特性に応じた育苗スケジュールの策定

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター 林業研究部
〒877-1363 大分県日田市大字有田字佐寺原35
電話 0973-23-2146 ファックス 0973-23-6769
e-mail a15088@pref.oita.lg.jp